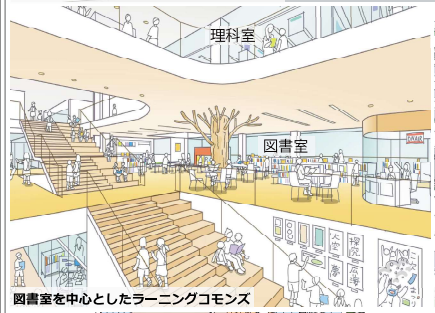
「個別最適の効果的な学びを可能とする施設」「特別支援教育を可能とする施設」「地域と連携して子どもを育む施設」「学習環境や周辺環境に配慮した計画」について提案

未来の学び舎　～コモンズによる協働の学び、地域と共創する学校～

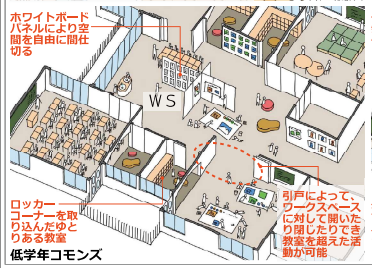
13.5x15=202.5㎡

地域に開かれた学校の活動が溢れだす新校舎

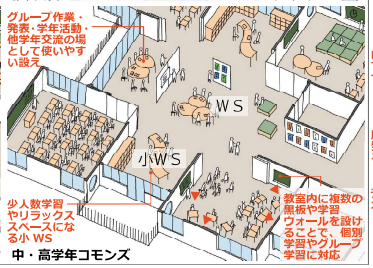


図書室を中心としたラーニングコモンズ

周辺の街並みに調和した新校舎



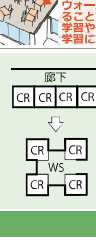
低学年コモンズ

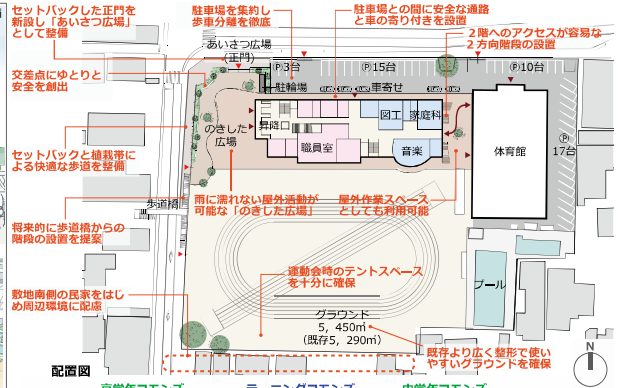


中・高学年コモンズ

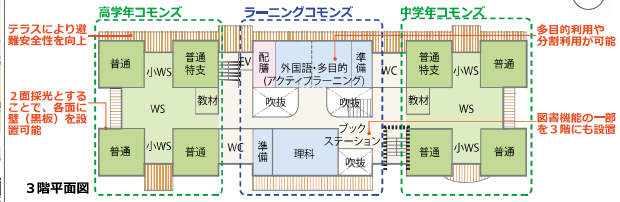
従来の教室の中で完結した教育環境を抜け出し、機能ごとにまとまった空間グループである『コモンズ』によって学校を構成することで、校舎全体で楽しく興味を持って学び、生活できる学校をつくります。
また、地域拠点・防災拠点としての役割を果たす学校とします。

■３つの基本方針
①コモンズによって学校を構成することで、個別最適な様々な学びの場を創出
②図書室を中心とした児童・教職員・地域によるコミュニティスクールの実現
③敷地北側に新校舎を配置し、圧迫感の低減・グラウンド確保・周辺環境に配慮

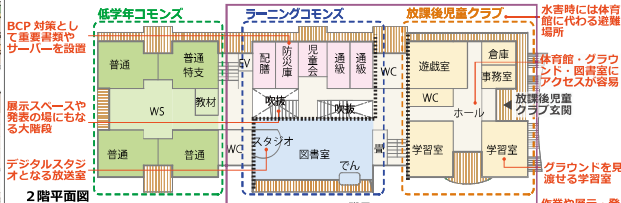




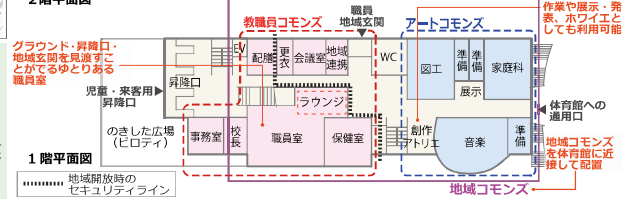
配置図



3階平面図



2階平面図

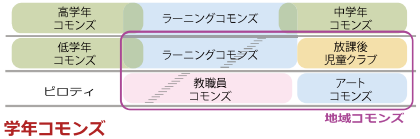


1階平面図

テーマ１「個別最適で効果的な学びを可能とする施設」について

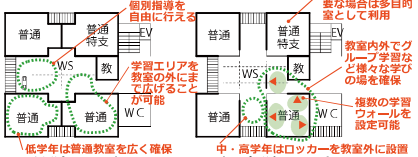
コモンズによって学校を構成

４つのコモンズを機能的な繋がりや体育館・グラウンドとの関係に配慮して配置し、学校全体を学びと活動の場とします。



学年コモンズ

・普通教室とワークスペースを２学年で１つにまとめ、学年に応じたフレキシブルな学習環境を実現。
・各学年コモンズは他学年の通り抜けがない配置とすることで、落ち着いた生活環境を実現。



低学年ユニット　中・高学年ユニット

ラーニングコモンズ

・学校中心の２階にオープンな図書室を配置し、日常的な利用を促進。
・３階の理科室・外国語室は近接した階段で図書室と連携可能。
・外国語室はアクティブラーニング室として多目的な学習が可能。

アクティブラーニング室

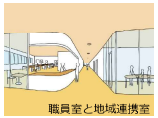
アートコモンズ

・創作系の特別教室を集約し、創作アトリエを設置し、興味や探求にいざなう。
・廊下に面して展示棚を設置。
・準備室はガラスによってオープンにすることで興味を促進。

図工室と準備室

教職員コモンズ

・教職員の協働と働き方改革を促し地域との協働の中心となる。
・グラウンドや昇降口、地域玄関を見渡せる室配置。
・職員室内にラウンジを設け、作業や休憩スペースとして利用可能。

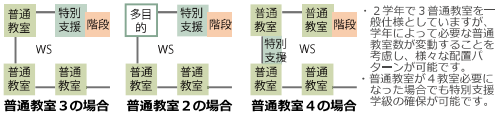


職員室と地域連携室

テーマ２「特別支援教育を可能とする施設」について

コモンズ内に特別支援学級を配置し、インクルーシブ教育を実現

・２学年単位の学年コモンズとすることで、必要に応じて特別支援学級や多目的室等を自由に配置できるインクルーシブな学習環境。
・学年コモンズ内に特別支援学級を組み込む事で通常学級の児童との協働学習が可能。
・教室に可動間仕切を設置することで障害に応じた個別対応が可能。

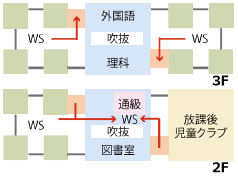


普通教室３の場合　普通教室２の場合　普通教室４の場合

・２学年で３普通教室を一般仕様としていますが、学年によって必要な普通教室数が変動することを考慮し、様々な配置パターンが可能です。
・普通教室が４教室必要になった場合でも特別支援学級の確保が可能です。

校舎の中央に配置した通級学級

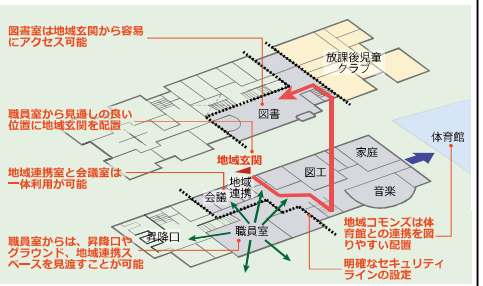
・通級学級は２階の中央付近に配置することで各コモンズからの動線が短く移動が容易。
・日常的な通過動線上ではないので落ち着いた環境でありながら図書室が伺えるので疎外感を与えない計画。
・吹抜があることで、通級教室前の廊下はワークスペースとして一体的な利用が可能。



テーマ３「地域と連携して子どもたちを育む施設」について

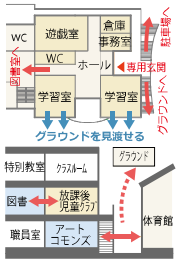
地域コモンズによる連携強化

・地域連携室やアートコモンズ、図書室、放課後児童クラブを地域コモンズとしてまとまり良く配置。
・各教室や創作アトリエで地域住民と児童の交流・協働による演奏・創作・発表が行える場として整備。
・専用の出入口を地域コモンズの中心に設置。職員室にも近いことで、セキュリティの確保と同時に、教職員とのコミュニケーションが行える空間として利用可能。
・地域住民による整備や読み聞かせが行われている図書室は、校舎の中心に配置。日常的に利用しやすく地域住民との交流を促進。



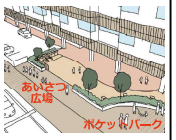
放課後児童クラブ

・放課後児童クラブは校舎２階の東側に配置。
・体育館、図書室、グラウンドなど学校施設全体を利用しやすい配置とし、放課後も豊かな時間が過ごせる環境を創出。
・専用玄関を設け、休校日のセキュリティを確保。
・専用玄関は、送迎時の駐車場に近く車の混雑を抑制。
・体育館が１階にあることから水害避難スペースとして利用可能。



安全な歩道空間

・正門前は「あいさつ広場」としてゆとりをもたせ挨拶運動で地域住民との日常的なつながりを創出。
・敷地北側のポケットパークをつくり、地域住民や児童の憩いの空間とする。



記憶の継承

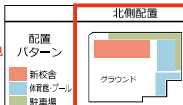
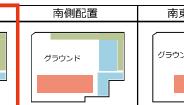
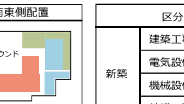
・学校の思い出を未来へつなげ地域への愛着を深める。
・アンケートを行い、独自性があるもの、未来へ受け継ぎたいものを設計に反映し世代をつなぐ校舎とする。

記念碑などの継承

テーマ４「学習環境や周辺環境に配慮した計画」について

周辺環境と動線計画に配慮した配置

・新校舎は現在の校舎と同じ北側に配置し、登下校や体育館への移動に配慮すると同時に、近隣住宅へのプライバシーにも配慮。工事中においても、グラウンドの確保や安全な登下校が可能で近隣への騒音にも配慮。
・３階建てのシンプルな平面形状とすることで、グラウンドを整形で広く確保することが可能。

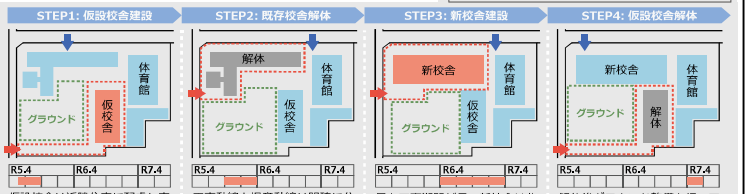
配置パターン（新校舎／体育館・プール／駐車場）	北側配置	南側配置	南東側配置
			
近隣への影響	◎ 既存と同じため影響小	△ 南側隣地に影響大	△ 南側隣地に影響大
登下校しやすさ	◎ 正門から校舎が近い	△ 正門から校舎が遠い	△ 正門から校舎が遠い
体育館との関係	◎ 最も校舎と体育館が近い	△ 校舎と体育館が遠い	○ 校舎と体育館が近い
駐車場との関係	◎ 最も送り迎えしやすい	△ 送り迎えしにくい	○ 送り迎えしやすい
グラウンド	◎ 日当たりが良く整形	○ 整形だが日当たり悪い	△ 不整形で日当たり悪い
コスト	△ 仮設校舎が必要になる	○ 仮設校舎は不要	○ 仮設校舎は不要

※登校のしやすさは歩道がより安全性が高い北側に正門があるものとしています。

区分		概算工事費
新築	建築工事費	1,572,000,000 円
	電気設備工事費	301,000,000 円
	機械設備工事費	113,000,000 円
	外構工事費	35,000,000 円
仮設校舎工事費		160,000,000 円
総工事費（設計料は除く）		2,181,000,000 円

※仮設校舎は、実施設計終盤から建設を始めることで事業スケジュールに納まります。

凡例　➡ 児童通学動線　➡ 工事車両動線　---- 仮囲い



仮設校舎は近隣住宅に配慮し東側に建設。グラウンド南側に工事車両動線を確保

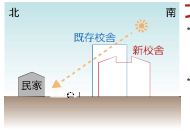
工事動線と児童動線は明確に分け安全性を確保

最も工事期間が長い新校舎は北側に建設するため、南側隣地への工事中の影響は最小限

解体後グラウンド整備を行い工事完了。４月から新校舎で授業開始

周辺環境との調和

・外観は歴史的街並みと調和する勾配屋根や格子を採用。
・３階建てとし、建物高さを押さえることで周囲の街並みに調和。

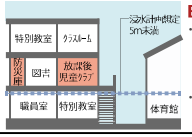


プライバシー配慮

・新校舎は現在の校舎とほぼ同じ位置に配置し、高さを抑えた計画。
・近隣への環境の変化が出来るだけ少なくなる計画。

登下校の安全配慮

・明確な歩車分離を行い安全性に配慮。
・放課後児童クラブの送迎は敷地内に広い寄り付きを設置し、渋滞を起こさない計画。



BCP（事業継続計画）対応

・浸水対策として、屋外階段から直接２階に上がれる放課後児童ｸﾗﾌﾞと避難ｽﾍﾟｰｽを整備。
・２階の防災庫にはサーバー設置や重要書類などを保管。

（注）　用紙は、日本工業規格Ａ列３番とする。